

生活保護の水際作戦常態化

50代の生活保護利用男性に1日1000円しか手渡さず、金額支給をしないといった群馬桐生市。その後、新たに2008年以降の調査分だけで11世帯で全額支給をしないことが判明し、86世帯に本人の同意なしに受領印を押すなどの事実も判明。長年にわたる大声で利用者を怒鳴り、申請書をわたさないうなどの水際作戦が常態化しています。

(横田和治)

群馬・桐生市

同市は18日に荒木副司市長が記者会見で謝罪し内部調査チームと第三委員会設置を表明。市議会では日本共産党の渡辺恒市議員が追及、市側は反省を繰り返す一方で追法性の認識の欠如や大声を出して威圧する行為について、利用者が先に大声を出したから、といった責任転嫁をしています。

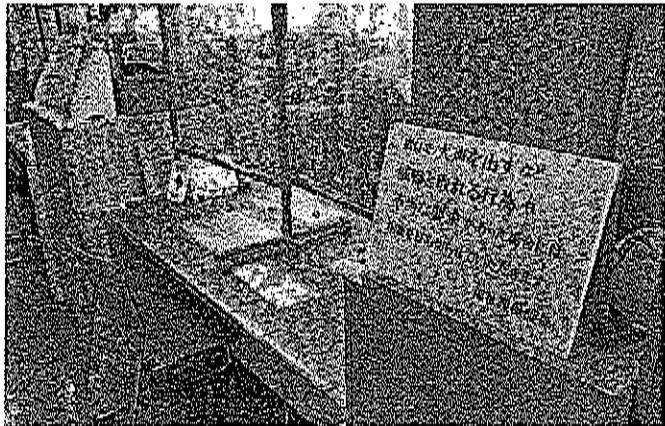


追いこまれ転居

同市で生活保護を9月から11月末に利用していた現在他市に在住している倉田雅子さん(仮名)とその親子の和夫さん(仮名)。雅子さんは心臓に持病を抱え労働が困難で、和夫さんは成人していますが障害を抱え働けません。在住している市で生活保護を利用して



5人がかり怒鳴られ



生活保護利用者に現金を手わたす、大声でどう罵るなどの行為が行われていた福祉課保護係窓口＝群馬県桐生市役所内

いましたが、桐生市に転居し生活保護を申請すると「なぜ桐生に来た!申請したからと出して出ないからな!」と怒鳴り、5人がかりで怒鳴られたと倉田さんは話します。他にも月に保護費が決定したにもかかわらず、10月末に初支給をすまぬなどの対応に精神的に追い詰められたと言います。

「かかりつけ病院を桐生市内に変えないと金銭管理までも」他にも桐生市は太田市にある一般社団法人日本福祉サポートに利用者の金銭管理をさせている例も。連絡をし

ないとお金を下ろせず生活に困っていると市議会に相談がありました。市担当者は本紙取材に対し、あくまでも法人を紹介しているだけと返答しています。日本共産党の関口直久市議は約30年間同市で市議を務めてきましたが、他市の生活保護率が上昇する中、桐生市が年々下がっていることを指摘。

「議会でも追及してきただけ、利用している高齢者がいなくなるので保護率が下がると言ったり、大声についても担当職員が力不足と責任転嫁され改善に繋がらなかった。相談を受けた人々の被害は多岐、長期にわたり、改善をしない市の福祉行政・水際作戦が方針になっているのは明らかだ」今後、1月に被害を受けた当事者が市を相手に国家賠償請求訴訟を行う予定です。また、全国生活と健康を守る会連合会などが中心になり現地調査団を結成し「市の職員、当事者双方に話を聞き市民に報告して運動に発展させる」と同会の吉田松雄会長は話します。